

**JP-63-91015**

**Abstract:** A planting mat is disclosed. The planting mat uses rock wool that is integrally provided with a frame member having substantially equally spaced tip ends and a bottom in a matrix form. Turf seeds are contained in the rock wool.

## The Delphion Integrated View: INPADOC Record

Set Now: Buy PDF PDF | File History | Other choices

Tools: Add to Work File | Create new Work File

Add

View: Jump to: Top

Email this to a friend

• Title: **JP63091015A2: VEGETATION MAT**

• Country: **JP Japan** High  
 A2 Document Laid open to Public inspection

• Kind: Resolution

• Inventor: **KOBAYASHI KEIICHI;**

• Assignee: **KYOTO DOKI KK**  
[News, Profiles, Stocks and More about this company](#)

• Published / Filed: **1988-04-21 / 1986-10-07**

• Application Number: **JP1986000238659**

• IPC Code: **IPC-7: A01G 1/00; E01C 5/00;**

• ECLA Code: **None**

• Priority Number: **1986-10-07 JP1986000238659**

• Family:

PDF	Publication	Pub. Date	Filed	Title
<a href="#">Buy PDF</a>	<b>JP63091015A2</b>	1988-04-21	1986-10-07	VEGETATION MAT

1 family members shown above

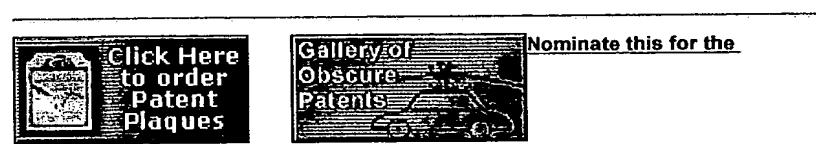
• Forward References:

Go to Result Set: Forward references (1)

PDF	Patent	Pub.Date	Inventor	Assignee	Title
	<a href="#">US6219965</a>	2001-04-24	Ishikawa; Yoshio	Otsuka Kagaku Kabushiki Kaisha	Plant growth sheet structure, natural turf sheet structure, method of growing turf and method of laying turf sheet structure

• Other Abstract Info:

None

Powered by **Verity**

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 特許出願公開

⑪ 公開特許公報 (A)

昭63-91015

⑫ Int.Cl. 1

A 01 G 1/00  
E 01 C 5/00

識別記号

301

庁内整理番号

C-7416-2B  
6828-2D

⑬ 公開 昭和63年(1988)4月21日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 植生マット

⑮ 特願 昭61-238659

⑯ 出願 昭61(1986)10月7日

⑰ 発明者 小林 啓一 滋賀県野洲郡野洲町南桜1460-47

⑯ 出願人 京都度器株式会社 京都府京都市南区東九条松田町24番地

#### 明細書

##### 1、発明の名称

植生マット

##### 2、特許請求の範囲

- 1) 人工芝にかわる天然の植生体において、無機質材料の綿体を骨材で補強したことを特徴とする植生マット。
- 2) 保水性を高めるため吸水性ポリマーを包蔽した前記特許請求の範囲第1項記載の植生マット。
- 3) 種子ならびに肥料を包蔽した前記特許請求の範囲第1項記載の植生マット。

##### 3、発明の詳細な説明

###### 〔産業上の利用分野〕

この発明は骨材で補強された無機質材料で構成した綿体を土壌がわりに利用して、芝生等を構築しベランダ、庭、公園等に簡易設置できる植生マットを提供する。

###### 〔従来技術〕

種子包蔽綿体 (実公昭35-19841号)

) や水溶性繊維からなる二枚のリボン状綿層の間に種子を介在させたりボン状植物育苗用マット (実公昭44-4112号) がある。  
(発明が解決しようとする問題点)

上記のように構成された植生マットは育苗を主としているため、畳に敷くものであり播種直後、植生マットの上を人が歩き回ることがない。

この発明に係る植生マットは、ベランダ、庭、公園等人が踏みつける場所に敷くと、綿体が圧縮され、苗が傷つき、成長が阻害された。

###### 〔問題点を解決するための手段〕

この発明は綿体を人が踏みつけても圧縮されないように、靴が入り込まない大きさの格子状の骨材を一体的に構成することで解決した。

###### 〔作用〕

この発明は、骨材で補強された無機質材料の綿体を土壌がわりに利用して、芝生等を構

特開昭63-91015 (2)

種し、ベランダ、庭、公園等に敷設して踏みつけられても骨材によって苗を傷めることがない。

〔実施例〕

第1図は、この発明の一実施例である植生マットの外観を示す斜視図である。

植生マットは鉢底を織維状にした岩綿とも云われる無機質材料の綿体であるロックウール(1)に略等間隔に先端(3)を有し、底部(4)は格子状に形成された合成樹脂等で構成されている骨材(2)を一体化したものである。

第2図は、第1図のA-A断面図で骨材(2)の先端(3)を有しない部分は通孔となっている。

第3図は第1図のB-B断面図で骨材(2)の先端(3)を補強する梁(5)を有している。

ロックウール(1)を骨材(2)に一体化するには、骨材(2)の先端(3)にロック

ウール(1)を載せ、上からプレス又はローラで押圧することで完成する。

上記一実施例の綿体を無機質材料のガラス織維を利用したグラスウールを利用してもよい。

又、本実施例の植生マットはブロック状となっているが、図示はしないが帶状として利用者が必要とする長さに切断して使用することが出来る。

又、ロックウール(1)の保水性を高めるため、吸水性ポリマーを包蔵することが出来る。

又、ロックウール(1)に種ならびに肥料を包蔵しておくことも出来る。

〔効果〕

この発明は、上記のように構成されているので孔隙の著しく多い無機質材料の綿体を土壤がわりに使用する事により、芝生等に快速な成育条件をあたえると同時に軽量性の特徴を生かし高層建物のベランダ等に手軽に芝生等の根性の草類を楽しめる。

又、芝生等は耐踏性には一般的に弱く、公園等では芝生内立ち入り禁止となっているがこの発明は合成樹脂等の骨材でもって補強し踏まれても、骨材が重力を支え、直接芝生に圧力がかからない構成となっているため、遊歩道、やテニス等のスポーツ施設にも利用できる。

又、付随的に透水性を持っているので、屋外のスポーツ施設では排水性が期待出来る。

4. 図面の簡単な説明

第1図は一実施例の植生マットの外観を示す斜視図。

第2図は第1図のA-A断面図

第3図は第1図のB-B断面図

1) ロックウール 2) 骨材  
3) 先端 4) 底部  
5) 梁

特許出願人 京都度器株式会社

代表者 村田芳三

図面

FIG.1

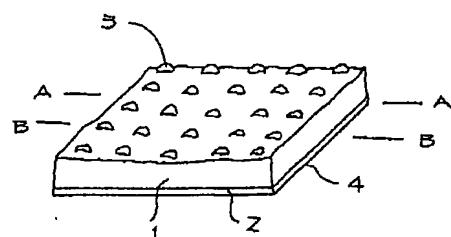


FIG.3

